

令和4年度 第1回江南市総合教育会議 会議録

開催年月日 令和4年8月4日(木)

場 所 江南市役所 第3委員会室

出席委員	市長	澤田和延
	教育長	村良弘
	教育長職務代理者	山田茂美
	委員	後藤鎮全
	委員	岩田正武
	委員	藤田佐知子

会議に出席した事務局職員

企画部長	阿部一郎
秘書政策課長	平松幸夫
秘書政策課主幹	田中元規
教育部長	梅本孝哉
教育課長	茶原健二
教育課管理指導主事	石原香蔵
教育課主幹	夫馬靖幸
生涯学習課長	可児孝之
スポーツ推進課長	中村雄一
学校給食課長	仙田隆志
こども未来部長	貝瀬隆志
こども政策課長	稲田剛
総務部長	本多弘樹
財政課長	安達則行
財政課グループリーダー	大池慎治

傍聴者数 0名

議 題 (1) 「江南市の教育に関する大綱」の進捗状況について
(2) 公共施設再配置と小中一貫校の導入について

午前9時24分 開会

<企画部長>

ただいまより「第1回 江南市総合教育会議」を開会させていただきます。

この会議につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第1項の規定に基づきまして、本市の教育に資するため設置するもので、市長と教育委員会が十分な意思の疎通を図り、本市の教育に係る課題やあるべき姿を共有し、連携して教育行政に取り組むものでございます。

それでは、開会に当たりまして、澤田市長より挨拶を申し上げます。

<市長あいさつ>

皆さんおはようございます。澤田でございます。

本日は、大変お忙しい中、「令和4年度 第1回 江南市総合教育会議」に御出席いただき、誠にありがとうございます。

さて、この2年半、猛威を振るっています新型コロナウイルスですが、多くの方々の感染症対策の協力とワクチン接種事業の進捗により、今年度に入りまして感染状況が一定の落ち着きをみせていましたが、先月より感染が急拡大し第6波を超える状況となっています。今回、国は行動制限を設けないとの方針ですが、江南市としましても感染症対策の徹底を継続させるとともに、社会・経済活動の支援も行いながら、市民の皆さんが安心して住み続けられるまちづくりを進めています。

そのような中、学校では国の「GIGAスクール構想」に基づき、昨年度より一人一台端末を活用した授業を進めていただいております。当初は通信環境整備の遅れや不慣れたシステムの導入により、手探りの状態で行っていたものが、先生方のご尽力により最近では多くの授業で取り入れられ、学校生活に無くてはならないものとなっているとお聞きしています。

また、来年4月のオープンを予定しています布袋駅東複合公共施設につきましては、現在、鋭意事業を進めており、教育委員の皆さま方にもご審議をいただきました新図書館につきましても、開館に向け着々と準備が進んでいると聞いていますので、その際にはぜひ足をお運びいただければと思います。

さて、この総合教育会議は、首長と教育委員会が連携して教育行政の推進を図ることを目的とする会議であります。本日の会議でございますが、「江南市の教育に関する大綱の進捗状況」と、公共施設再配置と小中一貫校の導入について、協議をしてまいります。

教育委員会の皆様には、それぞれの立場から率直な御意見をいただくことをお願いいたしまして、私からのあいさつとさせていただきます。

<企画部長>

ありがとうございました。本日の出席者につきましては、お手元の名簿と配席図をもって代えさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいいたします。では、ここからの進行は、本会議の招集者でございます澤田市長にお願いいたします。

<市長>

それでは、議事を進めてまいりたいと思います。議題1「江南市の教育に関する大綱」の進捗状況について、でございます。

この大綱につきましては、平成28年3月に最初の教育大綱を策定し、令和元年度、この総合教育会議の場において、教育委員の皆さまの意見をお聞きしながら、改訂を行ったものです。

今年度については、重点施策の進捗状況の報告となりますので、教育課、学校給食課、スポーツ推進課、生涯学習課、こども政策課の順で報告をお願いします。

<教育課長>

それでは、令和4年度の進捗状況の報告となりますので、資料1の「江南市の教育に関する大綱」をご覧ください。2ページをお願いいたします。

教育大綱につきましては、教育行政における目標や取り組み方針である「基本方針」、重点的に取り組むべき「重点施策」で構成されています。基本方針は、柱1から柱5までであり、柱1は教育課と学校給食課、柱2が教育課、柱3がスポーツ推進課と生涯学習課、柱4が生涯学習課、柱5がこども政策課の分野となっています。

それでは、3ページをお願いします。「柱1 地域に開かれた快適で安全な学校づくりの推進」に対応する施策としまして、「①コミュニティ・スクール事業の推進」について、4年度の進捗状況をご説明いたします。コミュニティ・スクール事業は、地域とともにある学校づくりを目指すため、学校と地域が連携し学校運営を進め、教育力の向上を図るものでございます。学校運営協議会につきましては、昨年度は、新型コロナウイルスによる影響はあったものの、62回の協議会が開催されました。また、今年度につきましても、全ての学校で順調に協議会を開催しており、その中で校長の運営方針の承認や、年間活動予定、学校が抱える課題への対応などについて協議が行われています。なお、明日でございますが、15校の学校運営協議会の横の連携を図るため、コミュニティ・スクール情報交換会を開催する予定でございます。

続いて、「②学校施設の整備、充実」について、4年度の進捗状況をご説明いたします。安全で快適な学校生活を送ることができる教育環境を構築するため、快適な学習環境の整備や、老朽化した校舎等の改修など、学校施設の整備、充実を図るものでございます。昨年度は、屋上防水改修工事を小学校3校、中学校2校で実施し、計画的な予防保全を進め、学校施設の長寿命化に努めています。今年度につきましては、学校体育館の照明のLED化を図るとともに、学校渡り廊下の耐震補強工事を小学校2校、中学校2校で実施し、安心・安全な学校施設の整備に努めています。

続いて、「③特別支援学級等支援職員等の市費による学校職員の配置の充実」について、4年度の状況をご説明いたします。「特別支援学級」及び「通常学級」に在籍する特別な支援を必要とする児童・生徒に対する支援の充実を図るため、特別学級等支援職員などについて、市費での人的支援を図るものでございます。今年度は、保護者や学校現場において要望の多い特別支援学級等支援職員を3名増員し、小・中学校合わせて32名で支援を行っています。また、小学5・6年生を対象とした「英語の教科化」及び「3・4年生を対象とした外国語活動時間」に対応するため、昨年度より、英語指

導助手を1名増員し、8名で指導を行っています。

続いて、「④ICTを活用した教育環境の整備、充実」について、4年度の状況をご説明いたします。児童・生徒の能動的な学習への参加を促し、思考力や表現力、発表力などを育むため、ICT環境の整備を図るものでございます。昨年度から、一人一台学習者用端末の授業での活用を実施しており、ICT機器を活用した情報教育を推進しています。今年度は、通信環境の更なる充実を図るため、小中学校の各教室に設置しております無線LANアクセスポイントを、現行機種よりも通信処理能力の高い機器へと更新する予定でございます。

続いて、「⑤安心・安全な給食の提供」は学校教育課からの説明となります。

<学校給食課長>

現在までの進捗状況について、報告します。

新給食センターの候補地につきましては、市内のいくつかの候補地について検討を重ね、7月に「すいとぴあ江南西側エリア」に決定しました。さらに、事業手法につきましてはPFI導入可能性調査を実施し、PFI事業手法の可能性について検証しました。その結果、PFI事業手法はすべての業務を公共で実施した場合と比較して、財政縮減効果が確認できましたことから採用することとしました。以上で進捗状況の報告を終わります。

<教育課長>

続きまして、「柱2 心豊かな子どもの育成支援の推進」に対応する施策といたしまして、「①子どもを育成する環境の充実」について、4年度の状況をご説明いたします。人間性豊かな子どもを育成し、児童生徒の不安や悩みが解消され、不登校やいじめ問題を解決するため、心の教室相談員などについて、市費での人的支援を図るものでございます。今年度は、昨年度と同様に、心の教室相談員15名とスクールソーシャルワーカー2名を配置し、児童生徒に対して相談活動の充実に努めております。また、県がスクールカウンセラー8名を配置しており、児童生徒のみならず教員の相談にも応じる体制を整えています。

続いて、「②子どもの将来教育・社会体験の充実」について、4年度の状況をご説明いたします。勤労観・職業観の育成を、発達段階に応じて、教育活動の全領域で取り組むため、地域との連携を強化し、キャリア教育、ボランティア活動の充実を図るものでございます。キャリア教育といたしましては、今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年度に引き続き、中学2年生の職場体験学習は中止いたしますが、「働く人の話を聞く会」など、各学校で代わりとなる行事を行いまして、働くことの大切さを学ぶ場を提供していく予定です。以上、教育課分野のご説明となります。

<スポーツ推進課長>

続きまして、「柱3 生きがいをもって暮らせる生涯学習環境の整備」に対応する施策といたしまして、スポーツ推進課の関係部分「①のスポーツプラザを活用した健康づ

くり」について現在までの状況をご説明します。

令和元年度に策定しました「江南市スポーツ推進計画」に基づきまして、「誰もが気軽にスポーツを楽しめるまち こうなん」を基本理念として、毎年、各種スポーツ教室及びスポーツイベントの開催を予定していますが、計画期間内においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くのイベントが実施に至りませんでした。そのような中、国や県、各種団体が示すガイドライン等に沿った対策を講じながら、市民が安心してスポーツを楽しめるよう、スポーツ施設を適切に維持運営するとともに、イベント等の開催が安全に実施できるよう努めているところです。

また、今後の課題については、学校部活動の地域移行化に伴い、運動部活動の受け皿づくりが必要であると考えられます。説明は以上となります。

<生涯学習課長>

次に「②新図書館の建設」でございます。布袋駅東複合公共施設に移転予定の新市立図書館につきまして、「知」の拠点・生涯学習施設の中核として、「市民一人ひとりの暮らしに寄り添い、幸せをかたちにする図書館」となるよう整備をしております。令和3年度の実施内容といたしましては、令和5年4月の新図書館の供用開始に向けて、令和3年度、4年度の2年間で図書を約5万冊購入して、現図書館の蔵書12万冊に合わせて、約17万冊で開館ができるように、図書の整備を行っております。

また、図書館の指定管理者の選定を行いました。令和4年6月より令和8年3月31日までの3年10か月間、新たな指定管理者として株式会社図書館流通センターが管理・運営を行っております。今後は指定管理者としっかりと連携をしながら、新図書館の開館に向けて準備を遅滞なく行い、市民の方々が利用しやすい図書館が整備できるよう、事業を進めてまいります。

続きまして、「柱4 地域の特色を活かした芸術・文化・交流の推進」の「①芸術文化の振興・郷土の歴史の継承で心を豊かにする地域づくり」でございます。地域の芸術文化活動の拠点となる市民文化会館の環境整備を実施するとともに、市民が芸術文化活動の主役となる地域づくりを推進しております。現在、民謡講習会や美術館めぐりなどの教養講座、秋には小中学生を含めた市民が参加をする美術展を、また、Home&nicoホールでは、指定管理者の企画による市民に芸術文化に接する機会としての自主文化事業を行っております。

次に郷土の歴史や伝統への誇りと愛着を高めるための教養講座等を開催し、未来へ伝えてまいります。市民文化会館の自主文化事業での歴史講座、中学1・2年生を対象とした夏休み中学生歴史教室を開催しております。令和3年度の実施内容といたしましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、民謡講習会、文化協会による文化祭、及びHome&nicoホールにおける指定管理者の自主文化事業など多くの事業が中止となりました。その中で美術展につきましては、コロナ禍におきましても小中学生を始め、例年どおり多くの作品を出品していただきました。また、指定管理者の自主文化事業での歴史講座も「久昌寺の真実」などを開催し、多くの方々に来館していただきました。

今後の展開といたしまして、今年度は文化協会による文化祭や民謡講習会改め盆踊り講習会も、新型コロナウイルスの感染予防対策を行いながら開催をしております。子どもたちが文化芸術に触れる機会を提供するため、引き続き「次世代を担う子ども向けの事業」を展開するとともに、市民文化会館を安心安全に利用できるよう施設の整備を図ります。また、中学生歴史教室など江南市の歴史や文化的資源を活用した事業の展開し、文化の向上を図ってまいります。説明は以上でございます。

<こども政策課長>

続いて、「柱5地域が支える子育て支援の推進」について、こども政策課からご説明いたします。新・放課後子ども総合プランの推進については、「放課後子ども教室」と「学童保育所」に通う児童が、放課後子ども教室を実施する部屋等で、様々な体験や活動を行う「共通プログラム」を通して次代を担う人材を育成し、放課後等を安心安全に過ごすことを目的とした放課後対策事業でございます。これまで、草井小、布袋北小、古知野北小を除く小学校において、放課後子ども教室と学童保育が連携し「共通プログラム」を実施してまいりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、児童が多く集まり密になりやすい「共通プログラム」の実施は、令和2年度から中止しています。現在、新型コロナウイルス感染症の第7波ということもあり、再開の見通しが立っていませんが、今後についてはプログラムの内容を吟味して、再開できるよう取り組んでまいりたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。

放課後児童の居場所づくりについて、まずは学童保育につきましては、古知野北小学校児童は古北にじいろ会館内に学童室が整備され、古北学供から移転し4月から実施をしております。移転に併せて受入れ児童数も63人の定員から120人へ増員しています。令和4年度は利用を希望する児童数の増加に伴い、多くの学校で4月から待機児童が発生しましたが、現在は布袋小学校と布袋北小学校を除き待機は解消しています。この夏休みに関しましては、布袋小学校と布袋北小学校の児童が当該学校での利用が困難でありましたので、藤里小学校での受け入れを行い、遠方ではありますが、利用を希望する児童は受け入れを行いました。ただし、保護者へ利用確認をしましたが、多くの方が利用をされませんでした。また、古知野南小学校に関しましては、これまで分室、これは校舎内のふれあいルームをお借りして夏休みの期間に開室していましたが、学校のご協力をいただき、今後は授業日も含め年間を通じて開室することができるようになりました。

次に、放課後子ども教室についてです。未実施でありました古知野北小学校において、本年6月から開室し、これをもちまして市内全小学校で実施となりました。説明は以上でございます。

<市長>

説明が終わりました。この件につきまして、ご質問、ご意見をいただきたいと思います。山田委員から順番に発言をお願いしたいと思います。

<山田委員>

今年度は現在の大綱の最終年度になります。重点施策柱1から5まで掲げている施策について、計画的に対応していただいていることを、まずもって感謝申し上げます。今年度は梅雨明けが早く、いきなり30℃以上の猛暑が続きましたが、小中学校においては各教室のエアコンを活用し、コロナ禍ということで適切な換気が必要でありましたが、集中して学習に取り組み、健康を害することなく臨めたのではないかと思います。健康という観点から、学校給食についてお伺いしたいと思います。

大綱の4ページ、⑤安心・安全な給食の提供ということで、新学校給食センターの新たな候補地も決まり、建設についてはB T O方式のP F I 事業で計画されているというお話でした。そうなりますと、調理業務は民間委託になっていくと思われそうですが、民間委託になっても今まで以上により安心・安全で質の高い給食の提供をお願いしたいと思います。そこで、新学校給食センターについて、アレルギー対応食ですとか有機野菜の導入など、現状どのように計画を進められているのかお聞きしたい。そして、学校給食の役割で重要となります食育についても、新学校給食センターでどのように考えているのかご質問いたします。

<学校給食課長>

アレルギー対応につきましては、新学校給食センターでは除去食と代替食を組み合わせた形で実施できないか、現在検討を重ねているところです。具体的に申しますと、小学校、中学校の献立を分けまして2献立にすることを考えており、小学校のメニューの食材にアレルギーのある児童には、中学校のメニューを提供するといった対応ができるのではないかと考えています。次に除去食としましては、例えば汁物などは途中まで一緒の動線で調理し、最後にアレルギーのあるこどもの多い卵をいれないことで、すまし汁として別に提供するといった対応を考えています。さらに、2献立にするメリットとしましては、約8000食を同じメニューにしないことで、個々の調理器具の数が減らせるなど整備費の縮減が図れるといったこともあります。

また、対応していかなければならないアレルギー成分につきましても研究していかなければならないと考えています。一般的に卵、乳、小麦の対応をしている自治体がありますが、小麦まで対象としますとカレー等のメニューまで影響が出るため、どこまで対象とするかは難しいところがございますが、安心・安全な給食の提供ということで安全性が確保できるところを、給食センターの委員会に諮りながら決定していきたいと思っています。基本的には、出来るだけ皆さんに食べていただけるような献立作成をしてまいります。

次に有機野菜につきましては、議会の一般質問にも取り上げられていますが、値段の関係や生産量の問題があり、これらの問題と折り合いがつくようでしたら、ぜひ使っていきたいと思っています。

最後に食育についてですが、現在、栄養教諭が北部と南部の給食センターにそれぞれ2名おりますが、この4名が各学校を周り、給食時間を活用した食育教育を行っています。P T Aの試食会にも出向き、朝食の大切さなどの話をしてしていると聞いていま

す。新学校給食センターとなりましても、民間事業者に引き続き食育の協力について話していきたいと思います。

<市長>

では、岩田委員お願いします。

<岩田委員>

今、事務局より詳しい説明をいただいて、各種施策が確実に進められていて成果を挙げられていることがよく分かりました。これも、各課長を中心として努力されているからかと思います。特に重点施策柱1の「地域に開かれた快適で安全な学校づくりの推進」では、各校長先生から様々な要望があるかと思いますが、その要望を受け止めて要望の実現に向け、施設設備の充実、市費による学校職員の配置の充実が図られていると思います。これらの取り組みにより子ども達により良い学習環境を提供することになり、学校経営や運営に対する意欲、あるいは教職員一丸となつてのより質の高い教育活動が進められていると実感します。

では、質問させていただきます。今のスポーツプラザは使いやすく多くの方が利用され評判も良いと聞いていますが、時代にあわせて市民のスポーツや種目に対する要求が色々出てくると思います。例えば今だとテニスコートがもっと欲しいといった声も聞いていますが、今後、施設面で増設する予定があれば教えていただきたいと思います。また、新図書館の開館が目前にせまっております、市民の期待が大変大きいと思います。ただ、使いやすくなればなるほど多くの市民が殺到し、混雑が予想されます。スタート時においては、想定外のことも起こるかもしれませんが、運営において当面どのようなことに力を入れていきたいと考えていることがあれば、教えていただきたいと思います。

<スポーツ推進課長>

新型コロナウイルスの影響でチームスポーツや屋内スポーツの利用率がかなり下がっていますが、テニスにつきましては、屋外が中心ということと個人でもできるということで利用率は大きくは下がっておらず、コートの予約もかなり埋まっている状況です。ただ、新たにコートを増設するところまでの検討はできていませんが、他にスケートボードやBMX等の都市型スポーツも含めて、今後検討が必要ではと考えています。

<生涯学習課長>

新図書館ですが、現在の図書館の比べますと新たな施設を導入するということで、ICT関連として自動貸し出し機などの今まで使用していなかった設備を導入することを考えています。特にシステム関連の業者選定のプロポーザルの中で、業者の方の話をお聞きしましたが、江南市民の方は新しい機器に慣れていない方も多くいるかもしれないということで、当初スタート時に戸惑われる利用者の方が多く出る可能性があ

ることを心配しています。システム業者の方も、5日から1週間ほど図書館に張り付いて対応していただけるということで協議しています。また、イベントルームという新しい施設ができますが、イベントだけでなく憩いの場や学習スペースとしての利用も可能であると思いますので、指定管理者としっかり連携しながら、利用者の方に戸惑いがないように進めていきたいと思っています。

<岩田委員>

ありがとうございます。今言われたように利用しやすい施設、あるいは運用が温かい雰囲気施設の施設を作れば作るほど、多くの利用者が出てくると思います。例えば放課後こども教室などは、今後もっと利用者が増えてくると思いますので、財政面も含めてご検討していただければと思います。いずれにしても、ご尽力いただいてこのように多くの成果を出されていますことを、改めてこの場を借りてお礼申し上げます。

<市長>

では、後藤委員お願いします。

<後藤委員>

平成27年にこの「江南市の教育に関する大綱」の立ち上がりから携わっていますが、当初は大綱に記載してある施策について非常に予算がかかる施策も多くあり、当時、教育予算もひっ迫していましたので実現できるだろうかと心配していましたが、交付金を上手く活用し前倒しで実施していただいた事業もあり、本当に感謝をしています。

さて、コミュニティ・スクール事業ですが、市から活動支援の補助金も出ていますのでそれを十分活用しながら、主に学校が地元の方からボランティアを募る事業を進めていると聞いています。現在はコロナ禍が広がっていますので、あまりこども達と接しない草むしり等の清掃活動をしていただいているとのことですが、一番気になっていることは、登下校の見守り隊が年々減ってきていることです。今後は事務局も対策を考えていただかなくてはいけないのかと思っています。

あとスポーツ関係ですが、最近問題になっているのが、中学校の教員にかかる負担を減らしていかなくてはということで、先日伺ったのですが、スポーツクラブ江南が部活動を支援していくお話があるということで、今日が活動の初日とのことですので、現在の進捗状況等をお聞かせ願えればと思います。やはり、これからどのような形で進捗していくのかということが気にかかりますので、今わかる範囲で結構ですので教えていただければと思います。

あと、図書館の関係ですが、新図書館が今よりも市の南に移動してしまいますので、それぞれの地域で分室機能を持った施設が欲しいと感じます。今年度、古北にじいり会館がオープンし図書室も作っていただき、そこで孫達も本を借りて喜んでいましたので、それぞれの地域で利用しやすいような体制づくりを考えていただきたいと思います。

<スポーツ推進課長>

部活動の支援事業として試行でございますが、今日から夏休みを利用して9日間、スポーツクラブ江南がランニング教室を開催しましたところ、当初50名程度を予定していましたが39名の応募がありました。運営には学校の先生にも加わっていただいています。ここに至る間にも先生の兼業の扱いですとか、保護者への連絡ですとか様々な問題が出ていますが、今後、事業を進めるに当り検討課題として分かったことは有意義であったと思います。8月末まで安全に運営してもらえるよう見守っていきたいと思います。土日等の休日の部活動を地域へ移行していくことについては、令和5年度から7年度にかけて進めていくという方針が出ていますが、学校、教育委員会、スポーツ団体など様々な方からご意見をいただくために、検討委員会を立ち上げる必要があると考えています。具体的な詳細はまだ決まっていますが、その検討委員会の中で実際の方針を定めていきたいと思っています。

<教育課長>

登下校の見守り隊についてですが、現在ボランティアの方に支えられており感謝をしています。ただ、市で人的支援ということは困難でありますことから、現在、学校運営協議会へ補助金を出しておりますが、このような物的な支援は継続していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

<生涯学習課長>

図書館の分室ということで、古北にじいろ会館が分室としてスタートするのは新図書館が開館する来年度以降となりますが、今年度につきましても指定管理者にお願いしまして新しい本を増設しております。また、既存の公共施設を利用した分室として、本の貸し借りだけでなく施設を利用されている方との連携、例えば学童、放課後こども教室での読み聞かせや公民館利用者に講座的なことができればと思っています。今後、他の施設でも実施して欲しいとの要望も聞いていますので、古北にじいろ会館での状況や他の施設でのニーズを見ながら、市の公共施設再配置が実施されていく中で検討していきたいと思っています。

<市長>

では、藤田委員お願ひします。

<藤田委員>

総合教育会議で様々なことを話してまいりましたが、4年間でこの大綱の施策の実現、本当に感謝しています。実現するには大きな資金が必要となりますが、それ以上に強い思いや行動力がなければ成しえないと思っています。ありがとうございます。また、これからの教育のため、こども達のため、今後ともよろしくお願ひします。

まず一つ目ですが、学校のICT環境についてです。ICTが整備されて授業で活用されることが非常に多くなり、こども達も非常にきらきらしながら授業を受けてい

る姿をよく見かけます。ただ、多くの児童生徒が一斉にパソコンを使用すると通信が繋がりにくくなるため、譲り合いながら使っているとのこと。昨年、無線LANの整備をしていただいたと聞いていますが、年々ICTの環境も変わっていくと思いますので、それに対応できるようにお願いします。

次に人材ですが、心の教室相談員、スクール・ソーシャル・ワーカー、スクール・カウンセラー等の方達の力は学校にかけがえのないものと思っています。また、昨今では教師が保護者の対応に追われて、本来の業務に差し支えが出るとか心の病を患ってしまうとか懸念されていますので、それらを防ぐ為、スクールロイヤーの導入もご検討願えればと思います。また、心に元気がなかつたり人と会うことに負担を感じてくるこどもに対して、癒しを感じるロボットを導入するのもどうかと思います。実際に不登校のこどもが元気を取り戻して学校に通うようになったり、言葉を忘れてしまった方が笑顔を見せるなど、感情が蘇ってくるといった報告事例もあるということです。

3つ目は学習室のことですが、新図書館への期待は非常に大きいです。楽しみだとか待ち遠しい、近くの学校の生徒は羨ましいといった声を耳にします。新しい施設や蔵書が増えるということもありますが、こども達からは、今は他市町の施設やショッピングモールのフードコートを利用しているが勉強できる場所が欲しい、という要望があるという話を聞くと、江南市内には11箇所の学習室があるのでジレンマを感じます。質問ですが、現在どれくらいの学習室の利用者がいるのかをお尋ねします。また、こども達に江南市にも学習室があることを伝えたと、存在を知らなかったり、どうしたら利用できるのかということをごく聞かれます。ホームページに部屋の写真を載せたり、利用の仕方などもっと周知していただけたらと思います。地図を見ますと古知野南小学校と門弟山小学校の近くに学習室がないため、学習室を整備していただけたらと思います。

<教育課長>

学校の通信環境についてですが、通信環境が悪いということでローカルブレイクアウトと申しまして、児童生徒が授業で使う通信についてはセンターサーバーを通さず、直接プロバイダーへ繋がるよう回線を変更いたしました。これによりある程度は改善いたしましたが、まだ繋がらない場合もあるとのことで、今年度各教室のアクセスポイントを性能の良い機器へ変更することを考えています。なお、これでも通信環境に不具合がある場合には、学校に専用回線を引くことも検討しています。

次に人的な面でスクールロイヤーの配置についてですが、学校単独で直接雇用するという事は難しいのですが、現在、市の顧問弁護士や県のスクールロイヤーに相談を行っており、今年度も数件相談している状況となっています。いずれは配置も必要となってくるかと思いますが、現状はこのような対応となっています。

<生涯学習課長>

現在の生涯学習課管轄の学習室のある施設となりますと公民館や図書館等となりますが、利用者数は昨年度の延べ人数で、公民館につきましては2167名と学習等供用

施設で1719名となっています。図書館ですが、参考資料室という名前となっていますが学習室として使用可能であり、利用者数の把握はしていませんが、席は28席となっています。新図書館となりますと学習室で100名程度入れる部屋となっており、別にグループ学習室やコワーキングスペースとして閲覧席と学習室を兼ねた席もあります。利用できる人数は約4倍程度となる予定で、地域全域から来館されることを想定し、座席管理システムを導入し予約できる体制を整えたいと思っています。また、公民館等の他の施設につきましては、ホームページで閲覧できるようにはなっていますが、閲覧されている方も少ないようなので、多くの方に利用していただけるよう周知の仕方を検討していきたいと思っています。

<市長>

では、教育長お願いします。

<教育長>

私は事務局の長を兼ねているので、進捗状況に対して意見を言いにくい立場ではありますが、現在の大綱が今年度で4年間が終わり、来年度新たに4年間の計画を立てていくという立場で話をさせていただきます。コミュニティ・スクールについては全ての学校がコミュニティ・スクールとなり4年間経つわけですが、今後とも継続していく必要がある中、取り組みがマンネリ化していかないということが大事であり、その辺を考えていかななくてはならないと思います。学校施設の関係は、今年度体育館の照明がLED化されますが各教室の照明もLED化していかななくてはならないので、財政的ご配慮をぜひお願いしたく、今後の計画にも位置付けしていく必要があるのではと思います。

職員関係では、できるだけ多くの学校の要望を叶えるべく特別支援学級等支援員を増員してまいりましたが、まだ学校からは不足していると聞いており、予算がかかる話ですが対応していかなければならないと思います。

また、先ほど新学校給食センターの話がありましたが、現在2箇所ある給食センターが1箇所になると、県の栄養教諭が4名から3名になります。栄養教諭はセンターでの献立作成を中心に業務を行っていますが各学校の食育や栄養指導を兼ねて行っていますので、県が3名に減員するとなると1名分を市の栄養教諭として補充できたらと、この辺も来年度の新大綱に位置付けていければと思っています。

先程スクールロイヤーの話がありましたが、今は市の顧問弁護士にお願いしていますが、すぐに対応していただけることを考えますと、常駐では難しいので非常勤の形でも構いませんが、特に保護者対応等は教員の苦手分野でありますので、今後はスクールロイヤーの配置が絶対に必要となってくると思います。

不登校対策としましては、現在、各学校に不登校児童・生徒が増えている中、中学校は各校に適応指導教室を持っていますが、小学校にも教育課程は別としても学校内で過ごせる場所を設置しそこに人を充てたいと考えており、当然予算が必要となってきますが不登校対策の一つになると考えていますので、ぜひ、来年度の新大綱に入れ

ていく必要があると考えています。

スポーツについては、テニスコート増設の要望、スケートボード場の設置等色々あるので、ぜひ新大綱に入れていく必要があることと、地域部活動についても国の指針に令和7年度を目途に進めるとありますので、検討していく必要があると思います。

新図書館については特色であるイベントルームをどう活用していくかが非常に大事だと思いますので、指定管理者と相談しながら、新大綱に謳っていく必要があると思います。Home&nicoホールですが施設の老朽化が進んでおり、特に展示室のパーティション等がかなり古くなってきているので、施設的な対応は絶対必要だと思います。財政部局も出席されているので、何とかご協力いただければと思います。また、公民館フェスタという事業があるのですが、各公民館が持ち回りで実施していますが非常に手狭ということなので、例えばHome&nicoホールで実施をすればもう少し多くの方に来ていただけるのではと思います。

学校プールの民間活用についてですが、現在、藤里小学校、門弟山小学校、西部中学校の3校で実施していますが、民間プールの受け入れの関係で利用に限度があるとのことですが、出来れば他の民間プールの発掘も必要となってくるかもしれないし、あるいは公共として設置となるかもしれませんが、今後も検討していく事が必要かと思っています。

このように新大綱に盛り込んでいければと思いますが、市長のご意見もいただきながら進めていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

<市長>

ありがとうございます。大変たくさんの項目の中で、問題となるような箇所についてご発言いただいたと思いますが、私の方としましては大綱に示された項目については概ね達成されたかと思っています。コロナ禍となる以前に熱中症対策で実施した小中学校の普通教室へのエアコン設置につきましては、江南市では計画的に3年ぐらいかけてやっていく方針でしたが、国が補助金を交付するとのことで一気に進んだということがありました。将来的な財政面について国からははっきりとした回答はいただけないところもありますので、引き続き市長会等を通じて国に要求していかなければと思っています。

コミュニティ・スクールにつきましても、コロナ禍で十分な活動はされていないところもあるかと思いますが、色々と研究して進んでいければと思っています。新型コロナウイルスの感染状況を見ながらになるとは思いますが、今後の活動に期待したいと思っています。

新給食センターにつきましては、現在用地買収等、計画に基づいて進められているかと思っています。先ほど有機野菜の話も出ましたが、ボランティア団体の方々からも熱心に提案をいただいていますので、価格的な問題、生産量の問題などあると思いますが、例え一品でも一日でもという考えで、給食に有機野菜を取り入れるのを進めていきたいと思っています。

図書館については順調に工事が進められており、ソフト面でのお話もありましたが

どう活用していくのか、大変期待感が大きい状況であります。ICT化するとの話も聞きましたが、大変な混雑が予想される中でしっかり対応することが必要と思います。

教職員の人数が不足していると昨日のネットニュースでも見させていただきました。全国的にも愛知県としても少ないということで、それぞれの市での対応となるかと思いますが、国にも要求をしていこうと思っています。

中学生の部活動について地域との連携とのことで大きな話題となりましたが、地域でのご協力をお願いしながら、スポーツ団体、文化団体との道も開いていかないといけないと思います。

古知野南小学校、門弟山小学校の校区でこども達が集まる場所がないということでしたが、昨日一宮市の図書館が入っている駅施設に行ってみりました。オープンデッキの暑い場所でも学生の自主勉強で席が埋まっており、夏休みということもあるでしょうが場所の提供は必要だと感じましたので、しっかりと研究していかなければならないと改めて思いました。

私の方からは以上でございます。

それでは、次に議題2「公共施設再配置と小中一貫校の導入について」です。事務局からの説明を求めます。

<財政課長>

それでは、公共施設再配置と小中一貫校の導入について説明させていただきます。

江南市の公共施設は、1960年代から1970年代の高度経済成長期以降にかけて多くが建設され、建築後30年以上経過した建物が全体の約8割を占めております。現在、これらの施設の老朽化が進行しつつある中、少子高齢化社会等により働く世代となる生産年齢人口の減少、厳しい財政状況等により、現存する全ての施設をそのままの規模で維持、更新することは、将来世代の大きな負担となり困難な状況となっております。

資料1ページの1をご覧ください。江南市公共施設等総合管理計画においては、「公共施設管理に関する基本の方針」を定めております。その内容といたしましては、初めに、【施設総量の縮減】、【施設の長寿命化】、最後に【運営の適正化】としております。特に、施設総量の縮減につきましては、公共施設の統廃合や廃止を推進することで、公共施設全体の延床面積を縮減してまいりたいとしているところでございます。さらに、江南市公共施設等総合管理計画では、縮減目標といたしまして、公共施設のライフサイクルコストを2055年までに304.4億円、年間ベースで8.2億円を縮減することを目標に定めているところでございます。

2. 個別施設計画をお願いします。(1) 江南市公共施設再配置計画でございます。これは、江南市公共施設総合管理計画をうけ、公共施設(建築物)の個別施設計画の一つとして、江南市公共施設再配置計画を定めております。その中で、小中学校につきましては、「学級数の減少が見込まれる学校や老朽化が進行した学校は、学校に近接する施設と同時に更新、複合化をする」といたしており、小中学校に関する2027年までの第1期アクションプランでは、長寿命化計画の策定、複合化・更新等と定め

ているところでございます。

(2) 江南市学校長寿命化計画でございます。これも個別施設計画の一つとして、教育部局において、策定された計画でございます。その中で a 公共施設の状況として、本市の公共施設全体の延床面積 21 万 2,455.2 平方メートルのうち、小中学校が全体の約 54%にあたる、11 万 4,705.4 平方メートルであるとし、b 学校施設の規模、再配置計画等の方針として、児童生徒数の動向などから適切な学校の規模や配置を見定め、統廃合の可能性について継続的に検討していくとされております。

次のページ、3. 小中学校の複合化・統廃合についてをご覧ください。小中学校を複合化や統廃合する場合の考え方についてでございます。

(1) 小中学校とその他の施設の複合化でございます。公共施設再配置計画等では、複合化に当たっては、学校に近接する施設と同時に更新、長寿命化改修を実施することを位置付けております。その方法として、例えば複合化にあたり、学校と地域との連携、つながりを深めるとの観点から、児童生徒だけでなく近隣にお住まいの市民の方々が生涯学習、文化芸術、軽スポーツ等といった活動の場所としてご利用していただき易い施設として、学校に近接する公民館や学習等供用施設といった社会教育機関などとの複合化を図るものでございます。

次に、(2) 小中学校の統廃合でございます。小中学校の統廃合については、再配置計画には長期的な取り組みとして、また学校長寿命化計画には、その可能性を検討していくと位置付けられております。その方法として、単に複数の学校を統合するのではなく、少子化による学級数の減少などを勘案して最適な施設規模としつつ、最近の国の動きにもありますように、現在の教育課題の一つである小1プロブレムや中1ギャップなどの防止や課題解消に対応した教育施設として、教育環境の充実を目的に小中一貫校を導入しながら、統廃合を図るものでございます。公共施設等総合管理計画や再配置計画での施設総量の縮減とライフサイクルコストの縮減については、こうした小中学校とその他の施設との複合化や、統廃合を通じて実現してまいりたいと考えております。

次のページ、4. 小中一貫校のメリット・デメリットをご覧ください。それぞれについて、教育面、再配置面と両面で記載いたしております。次は、参考として近年の国の教育関係の動きを記載しています。

最後に、先程ご説明いたしましたとおり、小中学校についても多くの建物が、建築後 50 年前後となっております。建物の更新は、実施時期を平準化させながら行っていくこととなりますが、その際には、施設総量の縮減とともに、魅力のある学校づくりの方法として、小中一貫校の導入などについて、今後、教育部局と連携し検討してまいりたいと考えております。説明は以上です。

<市長>

説明が終わりました。この件につきまして、ご質問、ご意見をいただきたいと思います。山田委員から順番に発言をお願いしたいと思います。

<山田委員>

7月に教育委員会の視察で、瀬戸市にありますにじの丘学園という小中一貫校に勉強させていただきに行ってきました。こちらの学校は大きな公園敷地の一部に新設されたもので、既存の5つの小学校と2つの中学校を一体として建設されていました。当然、校区が広いため全児童・生徒の徒歩での通学は困難ということから、行政と民間のバス会社とが協議を行い、バス通学が実施されていました。お邪魔してまず感じたことは、とにかく敷地が広く、それにより大きな校舎を建てることができたのだな、という印象です。中を見せていただくと小学校と中学校が廊下で繋がってはいるのですが、それぞれ全く別のエリアとして存在しており、さらに小学校と中学校が共有して使用するスペース、例えば体育館も2つありました。校庭には中学校の部活動で使うようなグラウンドもあれば運動会等で使う広いスペースもあり、当然プールも整備されていました。広い敷地があってこそ可能となっていると感じました。

江南市での小中一貫校導入の検討について、こどもの人数は減少していると言われていますが、35人学級の導入が進んでいく中で学級数は増えているのが現状であり、学級数が減っていない以上、縮小した一体型の校舎を作るのは難しいのではないかと思います。例えば、現在の中学校の敷地内に小中一貫校を建てると仮定しますと、小学校と中学校それぞれの校舎が必要ですので、現在の敷地の広さを考えますと限られた中に子ども達が詰め込まれてしまう感じになるのではないかと懸念を感じます。そして、新しい校舎を作るとなれば昔とは基準が違い机もロッカーも大きくなっていますので、教室の広さが大きくなり教室数も確保する必要がありとなりますと、当然敷地が必要であり既存の環境では困難ではないかと思います。

<市長>

では、岩田委員お願いします。

<岩田委員>

今、丁寧なご説明をいただいて江南市の状況は良く理解させていただきました。私が現職の頃、色んな研究会や研修会に参加させていただいて、各小中学校がどのような学校経営をしているのか、どんな方向で教育活動をしてみえるのか発表を聞く機会がありましたが、その時に一番驚いたのが全国の小規模な学校の多さでした。1学級1クラスや児童・生徒数100名以下の学校が非常に多く、そういう学校の事例発表を聞いても少人数の特色がありすぎて、複数の学級を持っている江南市の学校においては事例があてはまらなく、そして、江南市の学校はやりたいことができる適正な規模であると改めて感じていました。

学校の複合化や統廃合について、視察しました瀬戸市のお話では事前の地域や保護者に対する説明に相当な労力を費やしたと聞きました。やっぱり学校がなくなる寂しさや新学校に対する不安はなかなか解消できなかったとのことでした。ただ、地域の方に対する新しい校舎やグラウンドを見学してもらった内覧会を実施したところ、こんな

素晴らしい施設に子どもを通わせられるということで一気に不安が解消され、新しい学校に対する期待の声が高まってきたとのことでした。やはり、ここで学ばせたいと思わせるような設備、施設、広い敷地が確保された学校を作ることが統廃合の大前提ではないか、それが解決されない前に進めないのではないかと思います。

一方、教職員に目を向けますと、小中一貫校というこれまで経験したことがない指導を行うことにより、視野が広がって教職員の質の向上が図れると思いますが、すぐということは難しく、いつまでも暗中模索の実験校、新しい学校だから仕方がないということは許されないことなので、結果を出さないと保護者の理解を得られるはずはありません。ですので当然、職員室も小中連携のため一緒に打合せをする必要があります、それなりの広さが必要だと思います。また、教職員の駐車場の確保や、小中両方の免許を持っている質の高い教職員の確保など、様々な課題が浮かんでまいります。したがって、小中一貫校の導入は様々なメリットがありますが、現実的に小中両方の機能を備えた新しい学校をスタートさせるということは簡単ではなく、相当の年月がかかると思われます。計画自体は立派な構想ですし良い方向とは思いますが、現実的なことを考えて一つ一つ解決していくことが大事ではないかと思います。

<市長>

では、後藤委員をお願いします。

<後藤委員>

私も先日7月7日に視察に行っていました瀬戸市のにじの丘学園を見せていただきまして、中に入って感じましたのはスペースが凄く広くて天井も高く、開放的な建物と思いました。一番驚いたのはオープンスペースに図書室があり、児童・生徒だけでなく休日には一般開放して市民の方も利用している、そういう意味では図書機能と学校の複合化に当てはまると思いますが、このような校舎の建設を江南市に当てはめて考えますと、敷地の狭さが問題となるのかなと思います。広い場所が確保できる別の場所に出て大きな校舎を建てるとしましても、今度は通学をどうするかという問題が出てきます。瀬戸市さんの場合は基本的に中学生の自転車通学は禁止とのことなので、にじの丘学園では徒歩とバス通学は半々だと伺いました。バス通学には市から補助を出しており、相当の金額になるとのことでしたので、同じことが江南市でできるか課題になるかだと思います。例えば大きな校舎を建てて江南市内の中学校を統合するぐらいの考えであれば別ですが、現在の学校敷地の中での統廃合という話であれば、現実的に難しいという気がしてなりません。

さらに小中一貫校であれば、体育館は中学校は部活動で使ったりしますので、メインアリーナ、サブアリーナという形で当然2つは必要かだと思います。あと、プールについてですが小学校低学年向けの浅いプールも必要となると思います。江南市につきましても民間プールの活用ということで数年前から実施していますが、実際に委託できているのが1事業者だけなので、やはり江南市全体を考えますと温水プールを建設していただきまして、市内の全児童・生徒が通えるようになれば経費縮減になるので

はと思います。基本的にこの統廃合は厳しいのではと感じています。

<市長>

では、藤田委員お願いします。

<藤田委員>

小中一貫、9年間途切れのない学習ということで、小中学校の先生方が子ども達の人間関係を把握しながら見守ってくれる安心感ですとか、他学年との交流も増えるので子ども達の心の育成になるなど、非常に良い面があり魅力的と思いますが、やはり皆さんがおっしゃっていたように課題が散見していると感じます。昔と比較し大きい机やロッカーが必要となってくるため、教室自体も大きくしないといけないし、廊下にいたっては、教室と一体となったり、コミュニケーションの場としてベンチを設置したり、隣のクラスと合同の授業を行うことができる広いスペースが必要になると思います。また、特別教室は小学校と中学校が一緒になったからといって一つにはできない、小学生と中学生では体の大きさも違うし使用する器具も異なるため、それぞれの特別教室が必要になると思います。グラウンドや体育館もそれぞれ必要なため、現状の敷地では難しいのではないかと感じます。愛知県では中高一貫校について議論されていますが、既存の高校の敷地内にどのように中学部のエリアを確保するのかということも議題に上がっており、江南市で小中一貫校というのはまだ先が長くかかるのではないかと感じています。

<市長>

では、教育長お願いします。

<教育長>

今それぞれの教育委員が言われたことが課題と思っています。現在5校中学校があるので一校をモデル校として実施するとしても、敷地の問題は非常に大きな課題と思っています。また、通学区域について言えば、例えば布袋小学校、布袋北小学校は布袋中学校、宮田小学校、藤里小学校は宮田中学校の校区となりますが、北部中学校は古知野北小学校、草井小学校と門弟山小学校の一部が、西部中学校は古知野西小学校と古知野南小学校の一部が校区として入り組んでおり、これらの学校で小中一貫校を作ろうと考えても難しい部分があるのではないかと思います。

やはり一番の課題は、保護者の理解を得るためには素晴らしい学校であるとPRできるような校舎が必要ですし内容も必要だと思います。長い時間をかけて検討委員会や研究委員会を立ち上げ、学識経験者を交えて構想を立てていかないといけない気がいたします。そういう意味では継続的に研究はしていけないといけませんが、すぐ先が見えているという状態ではないと思います。県内でも瀬戸市の他に飛島村に小中一貫校、現在は義務教育学校がありますが、人口が少なく小中学校とも学年1学級という学校でしたので、比較的統合しやすかったのかもしれない。また、他にも名古屋

市等に小中一貫校はございますが、過疎化した状態で一つの学校として維持できない地域において統合されており、内容も特色ある学校づくりをしている状況ですので、江南市公共施設の総床面積を減少させたいという考えは理解できますが、それだけに特化していくとなかなか保護者の理解は得られないと考えます。

ただ、統廃合ではなく福祉施設、高齢者施設や公民館施設と一体となる複合化であれば、保小や保中、高齢者等との連携は正に教育の中で生きる教材に繋がると思いますが、私としましてはそちらの方向の方が具体的に進められる内容ではないかと思えます。民間プールの話もありましたが、藤里小学校と門弟山小学校の水泳授業を完全に民間に委託した後、学校プールを廃止した跡地に保育園や高齢者施設、公民館等を持ってくるのは可能かと思えます。委員の皆さま方がおっしゃったように、統廃合によって小中一貫校を作るのは夢があるとは思いますが、現実を考えると厳しい部分があると感じています。

<市長>

ありがとうございました。小中一貫というのは皆様がおっしゃるとおり現実として難しいところがあり、本当に小さな学校というのも江南市にはなく、35人学級制が進みそんなにクラスが減っている訳ではないということが分かりました。新たな場所に敷地を設けて建設した瀬戸市の学校は素晴らしい学校と思いましたが、様々な課題があることも分かりました。24、5年前に私がPTAの役員をやっていた頃に、江南市PTA連合会で滋賀県の小学校を見学させていただいたことがありました。その時は学校を地域に開放しましょうという時期だったのですが、例えば学校を選挙の投票所にするとか老人クラブを学校内に設けるといった取り組みをされていました。日曜日とか学校が使われない時に地域の方に使っていただくという考え方で、見学させていただいた学校も新しい校舎で廊下と教室の仕切りがないような造りで、やかましくないのかなと思ったのですが、非常に静かな環境でこのような校舎が流行りなのだと思った覚えがあります。

新たに学校を更新していく時には地域の方々にも利用していただく、市町村によっては老人の家や学童施設が校内にあり、管理の面で苦勞することはあるかと思えますが、そのような考え方の方が現実的なのかと思ったりします。高齢者の方々と児童・生徒との交流であったり、施設として床面積の縮小になるのですが、施設開放は難しい面もあり逆に学校を囲わなくてはならないなど、時代によって考え方も変わってくるのだと感じています。

小中一貫ということは課題も多いですが、地域の方々とコミュニティ・スクールなどを通じて学校の中で見つけていくこともできるのではと思います。地域と学校の関わりは非常に強く、地域から小学校がなくなるといった場合には大きな問題になるかと思えます。この小中一貫の回答にはなっていませんが、このようなことを思いました。私からは以上です。

他にいかがでございましょうか。よろしいですか。

委員の皆様方からは、議題1の大綱に示された各事業について、また議題2の公共施設再配置と小中一貫校の導入につきまして、貴重なご意見やご提案をいただきまして、ありがとうございました。ただ伺いましたご意見などは、今後の教育行政に反映させるべく鋭意努力して参りたいと存じます。

平成30年度からスタートしました第6次江南市総合計画におけます、政策的事業について、教育分野をはじめとしました様々な事業につきまして、精査をし取り組んでいるところです。江南市の財政状況を鑑みながら、各事業に優先順位を付け、事業を実施してまいりますので、今後も委員の皆さまがお気づきになられましたことや、こんな風になればいいなと思うことなど、今後の総合教育会議などでご提案をしていただければと思います。

貴重なご意見やご提案をいただきまして、ありがとうございました。本日の議題はすべて終了しました。以降の進行につきまして、事務局にお返しいたします。

<企画部長>

これにて本日の会議を終了させていただきます。本日は、誠にありがとうございました。

午前11時15分 閉会